

高松大学ハンドボール部 全日本インカレへの切符を奪取!

福岡県で開催された第64回西日本学生ハンドボール選手権大会に出場した。予選リーグの九州大学戦、立命館大学戦とともに勝利し、予選最終試合の関西大学戦へと挑んだ。高松大学史上初のベスト8進出をかけたの戦いに奮闘したが、最終スコア21対22で惜敗となった。

予選リーグを2勝1敗とし2位になったことで、インカレ決定戦へと進んだ。対戦相手は同じ中四国学連の環太平洋大学となった。序盤からの一進一退の攻防により、前半を14対14の同点で折り返した。後半立ち上がりから本学の攻撃の連携により点差を広げるとともに、最後まで諦めず粘り強いプレーが展開できたこと

によって、最終スコア33対29でこの戦いを制した。この勝利により、11月より石川県で開催される全日本インカレへの切符を手にすることができた。中四国学連の代表として良いゲームができるよう、残りの約2ヵ月しっかりと良い準備をしていきたい。



高松大学サッカー部 総理大臣杯に3年連続4回目の出場!

高松大学サッカー部は、「2025年度四国大学サッカートーナメント」で優勝し、「第49回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」に出場することとなった。

四国大学サッカートーナメントでは、2回戦で香川大学と対戦し、9対1で勝利した。準決勝では、四国学院大学と対戦した。先制点を奪い、試合の流れをつかみ前半を折り返した。後半も自分たちのペースで試合を進め、2点目を奪った直後に失点したものの、その後に1得点を奪い、3対1で勝利した。決勝戦では、聖カタリナ大学と対戦した。前半の立ち上がりから先制点を奪い、主導権を握ることができたが、その後に失点し、試合の流れが乱れる展開となった。退場者を出し、苦しい展開となったが、最後まで粘り強く戦い、2対1と勝利をつかみ取った。

今回で3年連続4回目の出場となる総理大臣杯では、1回戦で東海地区第1代表の中京大学と対戦する。



学/長/表/彰

本学では、学術・文化・スポーツなどで顕著な成果を挙げた学生を対象に「学長表彰」の授与を行っています。令和7年度前期(8月末現在)の表彰は以下のとおりです。

クラブ・個人名	適用	表彰日
ハンドボール部	[スポーツ部門]第64回中四国学生ハンドボール選手権春季リーグ戦1部 準優勝	令和7年6月20日
ハンドボール部	[スポーツ部門]第75回四国地区大学総合体育大会「ハンドボール競技」優勝	令和7年6月20日
サッカー部	[スポーツ部門]四国大学サッカートーナメント 兼第49回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント四国地区予選会 優勝	令和7年8月5日

令和6年度 学生による授業評価

本学では、教育活動がどのようになっているかの一端を把握し、授業内容・方法の改善・改革に資することを目的に、平成14年度から学期末に「学生による授業評価」を実施している。集計結果は、個々の授業ごとに担当教員のコメントを付して、翌年度の5月31日付けでPDFファイルにてDVDに保存し、附属図書館で閲覧できるようにしている。また、ホームページに大学、短大それぞれの全体集計結果を掲載している。

次のグラフは、令和6年度に実施した全体の集計結果である。回収率は、大学が52.3%、短期大学が76.1%であった。

また、本学の「授業評価による教員表彰に関する規程」に基づき、令和6年度の授業評価において優秀な評価を得た教員として、大学から経営学部の奥田直希助教、大学院から藤原泰輔教授、石田裕明講師、短期大学から保育学科の辻野栄一教授が表彰された。

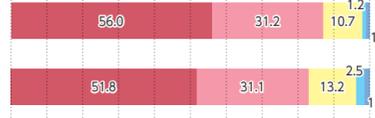
高松大学



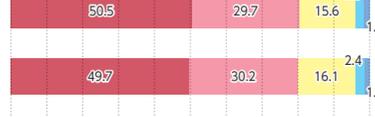
1. 1週間のうち、この授業のためにどれくらい予習や復習をしましたか



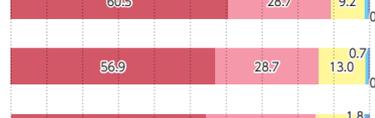
2. 授業中は熱心に取り組みましたか



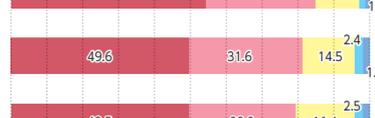
3. 教員の授業に対する情熱・熱意が感じられましたか



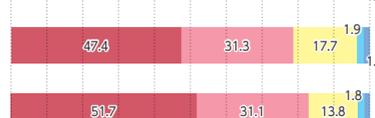
4. 教員の話方は明確で聞き取りやすかったですか



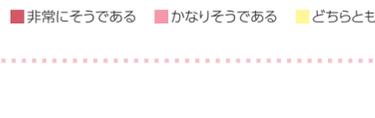
5. 学生に質問するなど、学生の参加を促す努力をしていましたか



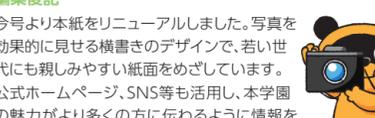
6. 学生の理解状況を十分確かめながら授業を進めていましたか



7. 授業開始・終了の時間は守られていましたか



8. 授業は、シラバス(授業計画)にそって行われていましたか



9. 教室内に良好な勉学の環境が保たれていましたか



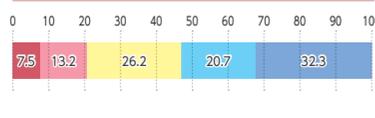
10. 授業内容はわかりやすかったですか

11. 授業を通して学問や勉強に対する意欲・興味が増えましたか

12. 自分の期待していたものが得られましたか

13. 総合的に判断して、この授業に満足していますか

高松短期大学



2. 授業中は熱心に取り組みましたか



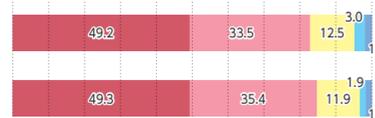
3. 教員の授業に対する情熱・熱意が感じられましたか



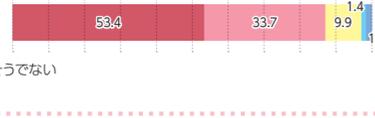
4. 教員の話方は明確で聞き取りやすかったですか



5. 学生に質問するなど、学生の参加を促す努力をしていましたか



6. 学生の理解状況を十分確かめながら授業を進めていましたか



7. 授業開始・終了の時間は守られていましたか



8. 授業は、シラバス(授業計画)にそって行われていましたか



9. 教室内に良好な勉学の環境が保たれていましたか

10. 授業内容はわかりやすかったですか

11. 授業を通して学問や勉強に対する意欲・興味が増えましたか

12. 自分の期待していたものが得られましたか

13. 総合的に判断して、この授業に満足していますか

KASUGA



大学祭の最新情報は こちらから

メインステージイベント

吉本爆笑お笑いライブ、ピンゴ大会、イントロクイズ、カマタマチアダンス教室パフォーマンス、コーラ早飲み、ジャグリングショー、jazz研究会ライブ、ダンスサークルパフォーマンス、カラオケ大会、フォークソングコンサート等

PICK UP!

2025 11/1^土 2^日

第29回高松大学祭 第56回高松短期大学祭

「恋が終わり 哀が残り 絆が深まる」

大学祭実行委員長
経営学部経営学科3年
山下 鈴湖

大学祭の

テーマは、「恋が終わり 哀が残り 絆が深まる」に決定しました。

夏の終わりを「恋の終わり」に重ね秋の訪れに「哀愁」を感じながら静かな季節の中で仲間との「絆」を深める大学祭にしたいという思いが込められています。

メインステージの企画は、イントロクイズ、カラオケ大会やカマタマチアダンス教室パフォーマンス等を予定しています。

最新情報や準備の様子はInstagramでチェックしてくださいね!フォローして、大学祭をもっと楽しもう!



「こどもまつり」を開催

昨年度までの大学祭では、高松大学発達科学部の「げんき村」と高松短期大学保育学科の「ほいくのくに」のそれぞれがテーマを決めて、子どもたちへの遊びや絵本の読み聞かせなどのイベントを開催していました。

今年度の大学祭から「げんき村」と「ほいくのくに」をあわせて「こどもまつり」と称し、共通テーマを「～あつまれ!ちびっこシェフ～」として、催し物を用意することになりました。お子様と一緒に、ぜひご来場ください。お待ちしております。

げんき村18丁目 わんぱく通り

「げんき村」18丁目村長
発達科学部子ども発達学科3年
田井 日菜

「げんき村」では、「～あつまれ!ちびっこシェフ～」というテーマに沿った装飾や遊び道具を用意しています。また、製作コーナーでは、「ピザづくり」の体験ができる遊び道具も用意するなど、乳幼児から小学生までの子どもたちが夢中になっ

て楽しめる空間づくりをめざしています。



ほいくのくに

「ほいくのくに」運営委員長
保育学科1年 武澤 雅

「ほいくのくに」は、5歳以下の子どもたち参加型の催し物です。昨年まで分散されていた会場を、今年から2号館1階東エリアに集結して開催します。



図工室1では、4つの研究室が料理をテーマに、紙のクレープ作りや転がるお子様ランチ等の遊びを準備しています。そこに今年も香川県立高松東高等学校の生徒さんたちが、2チームに分かれて参加してくれます。どんな催し物になるのか、私たちも楽しみです。廊下をはさんだ模擬保育室では、パネルシアターと人形劇の公演を行います。

現在、各研究室で意見を出し合い、看板製作や安全に配慮した遊び道具作りに励んでいます。保育学科みんなの仲の良さを生かし、楽しい催し物になるよう全力で取り組みます。

四国高松学園だより【かすが】

KASUGA

第142号
2025(令和7)年9月15日

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。

編集後記

今号より本紙をリニューアルしました。写真を効果的に見せる横書きのデザインで、若い世代にも親しみやすい紙面をめざしています。公式ホームページ、SNS等も活用し、本学園の魅力がより多くの方に伝わるように情報をお届けします。(N)



発達科学部

小学校教員採用試験を受験して



発達科学部子ども発達学科4年
鶴身 紗也

香川県の小学校教員採用試験を受験しました。私たちは日々努力を積み重ね、模擬授業では互いの授業を見て改善し合うなど、授業力を高めてきました。友人としてもライバルとしても仲間の存在は大きく、困った時には声を掛けて支え合い、辛い時期は互いの頑張りや励みに乗り越えることができました。

また、先生方をはじめ高松大学に関係する多くの方々から私達を見守り、サポートしてくださりました。一次、二次試験ともに対策講座を開講してくださり、様々なアドバイスをいただきました。

ときに厳しく思える指導も私たちの成長に欠かせないものでした。挫けそうな時には親身になって相談に乗ってくださり、あたたかく大切な言葉を沢山いただきました。共に頑張った仲間、そして支えてくださった方々に感謝を伝えたいです。ありがとうございました。

学部の特徴「ゼミ連絡会」

発達科学部子ども発達学科4年
野崎 実佐季

発達科学部の「色」を育み、縦と横のつながりを深める「ゼミ連絡会」は、毎週金曜5限に学部の全学生と教員が集まる大切な場です。

私は、昨年度1年間、「[MY HOME]」をテーマに、他の4名の役員と共に企画・運営を行いました。この経験を通して、教職に必要な人前で話す力や場の雰囲気をつくる力が確実に身につきました。また、週末に学部全体で笑い合える温かな雰囲気、私たち役員にとってもかけがえのない時間であると実感しました。

ゼミ連絡会は、発達科学部に脈々と受け継がれてきた魅力ある取り組みであり、今後もしっかりと伝えていきたい大切な伝統です。大学4年間という限られた時間の中で、学生生活でしか得られない貴重な経験の場がここにあります。今後も学部全体で盛り上げていきたいです。



研究室探訪!

発達科学部 糸目 真也
高校教員を定年退職した後、高松大学に勤務となり今年で6年目を迎えます。高校では、主に地学を中心に40年近く教鞭を取りました。いろいろな学校でたくさんの生徒に理科を教えることができたのが、私の大きな財産です。

■ゼミナールの特徴

教科指導(科学)ゼミでは、夢を実現する4つのC[Curiosity(好奇心)、Confidence(自信)、Courage(勇気)、Constancy(続ける力)]を大切に、自然科学をテーマに学生と一緒に学んでいます。

■ゼミ生へ一言

「センス・オブ・ワンダー」(The Sense of Wonder)を大切にしてください。この言葉は、「沈黙の春」(1962)の著書で有名なアメリカのベストセラー作家で海洋生物学者レイチェル・カーソン(Rachel Carson:1907~1964)が、56歳で生涯を閉じた翌年出版された著書のタイトルです。「センス・オブ・ワンダー」とは「美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目を見はる感性」です。

二十歳の時の自分

学業に苦しみ、サークル活動を楽しむ平凡な大学生でした。

経営学部

さぬき七夕未来の出会いフェスと早飲み大会

7月5日、高松丸亀町吾番街前ドーム広場において、「さぬき七夕未来の出会いフェス~若者と子どもが描く、未来への一歩~」を開催しました。本イベントは昨年7月7日に開催した「七夕コラポフェス」を発展させたものであり、経営学部の学生が主体となり、地域の皆様と日本文化に親しむことを目的に企画したものです。今年は、さぬき市長尾町の「バンジョイ塾」による竹細工体験や、学生と共に七夕飾りをつくるコーナー、そして「さぬき」の飲み物を使った「早飲み大会」など、子どもたちが楽しく学べる企画が行われました。特に、「さぬき」の飲み物を使った「早飲み大会」には大人だけではなく、子どもたちの参加もあり、非常に盛り上がりました。経営学部は今後も「地域を元気に」を合言葉に活動を行っていきます。



西安外事学院の来校交流

7月3日、本学と学術交流協定を締結している西安外事学院の学生・教員合わせて12名が、短期研修として本学を訪問しました。滞在中は、直島、栗林公園、金比羅、善通寺、父母ヶ浜、などを巡り、香川の自然、アート、歴史の魅力を感じてもらうことができました。

7月5日は、丸亀町吾番街前ドーム広場において経営学部が主催した七夕イベントにも参加し、七夕飾りを楽しみました。7月7日には本学を訪れ、うどん打ち、煎茶、折り紙などの日本文化を本学の学生たちと共に体験しながら交流を図りました。

今回の短期研修を通じて、本学と西安外事学院の友好関係が深まっただけでなく、本学の国際交流事業の展開にとっても貴重な経験となりました。



保育学科

「環境学習出前講座」を受講して

保育学科2年
松井 彩音

私たちは、第66回中・四国保育学生研究大会に参加する予定で、「海ゴミ問題」をテーマに人形劇を行います。そのため、7月2日の探究活動の日に、NPO法人アーケバゴ副理事長の森田桂治氏をお招きして、環境学習出前講座を開催していただきました。

その中で、瀬戸内海のゴミの現状を学び、マイクロプラスチックが大きな問題になっていることを知りました。マイクロプラスチックとは、海へ流出したプラスチックゴミが波や岩に削られ劣化して細かくなったもので、回収するのが大変困難だそうです。そのため、そうなる前に回収することや使用・購入を控えることも大切だと学びました。そして、何よりも海を好きになってもらうことが海ゴミ削減やきれいな海を守ることに繋がるとを教わり、子どもたちに伝えていきたいと思いました。

森田様、大変貴重なことを教えていただき誠にありがとうございました。仲間と共に試行錯誤しながら人形劇の準備を進めます!



恒例の七夕飾り

保育学科2年
竹林 美羽

6月16日に私たち美術研究室の1・2年生は、2号館1階南側にあるロビーで毎年恒例の七夕飾りを行いました。前週から研究室活動の時間を利用して、それぞれの学生が折り紙や花紙等を使っていろいろな七夕飾りを製作していました。そして、みんなが思い思いの願いを短冊に書いて、協力し合いながら笹に飾り付けていきました。

7月2日には、隣接する認定こども園高松東幼稚園の2歳児の子どもたちが、仲良く手を繋いで散歩しながら見に来てくれました。様々な色・形の飾りや短冊を見て「これなに?」「かわいい!」「お星さんもある!」と黄色い声が飛び交っていました。指さしながら楽しそうに会話してくれて、とてもほっこりとした気持ちになりました。七夕飾りを通して、子どもたちに季節の行事に親しんでもらえて良かったです。これからも季節の伝統行事を大切にしていきたいと思っています。



ビジネスデザイン学科

一つ一つ確実に

ビジネスデザイン学科1年
山下 立夏

入学後、初めて受けた検定は、秘書検定でした。秘書としての知識を身につけるために、過去問題を何度も解き直して勉強しました。次に、ビジネス文書検定を受けました。会社に就職した際に様々な文書に対応できるよう、文書の趣旨に応じた形式になるまで、書いては直しをくり返し練習しました。そして、漢字検定を受験しました。特に四字熟語と部首を重点的に学習しました。

入学して3か月、授業や自宅学習で検定合格に向けた勉強をしてきました。友人とは、大事なところを再確認し、教え合いながら仲を深めることができました。これから先、いろいろな検定を受験していきませんが、1級や2級などの上級合格をめざして友人たちと挑戦していきたいです。



働くことについて考えた実習

ビジネスデザイン学科2年
上野 愛佳

実習で「アントレプレナーシップ養成講座」という起業家精神について学ぶ講座に参加させていただきました。講座のはじめに起業家の方の講演を聞きました。そこで、私は起業をされた方の経験や起業に必要なことなどを知り、起業は大変だけれどやりがいを感じられることなのだと思えました。

講演の後は、自分のこれまでの人生経験から実現させたい物のアイデアを提案し、参加者の皆さんと意見交換をする時間がありました。周りの方々は年代が幅広く、私の就職活動に関する提案に対して、皆さんご自身の経験から知識やアドバイスをくださり、働くことについて考えを深めることができました。この経験は、働くことを考える上でとても良い刺激になりました。



発達科学部子ども発達学科4年 犬淵 桃愛さん

幼い頃から音楽が大好きだった犬淵さん。5歳でエレクトーンを始めてから、気づけば16年が経っていました。小学生の頃からコンクールに挑戦し、毎日何時間も練習を重ねてきました。エレクトーンを持っていなかった頃は、キーボードと手作りのペダルで猛練習!初めて賞を獲ったとき、努力を認めてくれたおばあちゃんが、念願のエレクトーンをプレゼントしてくれました。その後は高松市民吹奏楽団にも所属し、打楽器パートの一員として全国大会にも出場しました。

「一人ではできない表現も、みんなとならできる。それが楽しいです」と犬淵さん。彼女の音楽の道のそばには、いつも先生や家族、仲間たちの存在がありました。

「音楽の楽しさを教えてくれたエレクトーンの先生、そして支えてくれた周りの人々には感謝しかありません。みなさんのおかげで、音楽が私の人生を豊かにしてくれました」と、感謝の気持ちを込めて語ってくれました。

将来は保育者として、音楽の楽しさを子どもたちに伝えていくのが夢。「音楽には人の心を動かす力がある。その素晴らしさを、子どもたちにも伝えていきたい」と、今日も彼女は「音」と共に歩んでいます。

認定こども園高松東幼稚園ニュース

お散歩 お散歩 嬉しいな!



5月からスタートした「お散歩ボランティア」。水曜日は保育学科のお兄さんやお姉さんが、みかん組とりんご組のお散歩のお手伝いに来てくれます。いつものお散歩コースを手を繋ぎながら歩いたり、おしゃべりしたり...お互いの嬉しい時間になっています。

大学に到着すると、模擬保育室には木の玩具がいっぱい。子どもたちの笑顔もいっぱいです。広い空間で電車や積木、ままごと等の好きな遊びを思う存分楽しみました。

6月のお散歩では、綺麗に咲いている紫陽花や七夕飾りを見ることもできました。園内とはまた違った人々と環境との嬉しい出会いとともに、新しい発見もたくさんあります。秋からはいちご組さんも仲間入りできるかな?これからもお散歩ボランティア、楽しみにしています。



学園グッズに新作が登場しました。クリア軸に「たーちゃん」のシルエットが名入れされた、手にやさしくフィットする三角グリップのシャープペンシルです。色は学部学科カラーをイメージした4色。かわいくて機能的なアイテムです。

令和7年度ウインターフェスティバル

【日時】12月4日(木)
18時30分開演
【場所】レクザムホール小ホール
(高松市玉藻町9番10号)

学内選考で選ばれた学生やクラブ・サークルによる音楽の祭典です。ぜひご来場ください。

●ご寄附のお願い

本学園は、学生、園児に対する支援充実のため、ご寄附を募っております。誠に恐縮ですが、皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- 募集期間：随時受付します。
- 申込方法：本学ホームページもしくはお電話にてお申込みください。
- 連絡先：総務部会計課 TEL.087(841)2161

研究室探訪!

ビジネスデザイン学科
佐藤 麻衣

香川県に来て、7年が経ちました。ドライブは好きですが、美味しいお店と地名にはまだまだ疎いです。

■研究室の特徴

一人一人が現時点よりも成長できる環境を用意しています。各種行事やオープンキャンパスのスタッフなどの役割を通じて視野を広げ、新しい自分を知るきっかけにしてください。昨日よりも今日、見える景色が変われば素晴らしい。

■研究室の学生へ一言

せつかくの2年間、楽しく充実した生活を送ってほしいと願っています。「楽」な道より、「楽しい」道を選んで。

二十歳の時の自分

病院実習に向けて、知識を蓄えスキルを磨こうとしていました。一方で、卒業後の進路・就職について悩み、迷い、漠然とした不安に襲われていました。

